

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年 2月 5日

事業所名 ぽかぽか広場足利

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8 100%		広い部屋を有効に使い、鬼ごっこやボール遊び等で体を動かしている。	
	2	職員の配置数は適切である	8 100%			・体調不良などによる欠員が出た際は他の事業所からヘルプを要請し対応している。 ・基準人員以上の職員を配置しているが、利用者の特性によってはさらに人員がいるとよいと思うこともある。職員間の連携を強化したりスキルアップを図るようになる。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8 100%			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7 87.5%	1 12.5%		・広々としたスペースを使い自分のお気に入りの場所で伸び伸びと活動できている。 ・活動部屋が広い分、もっと掃除が出来る部分があると感じる。週の中でしっかりと予定を組んだり、担当を決めて清潔な空間を保てるよう努力する。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8 100%			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8 100%		保護者からの要望や意見は積極的に取り入れ、支援を行っている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8 100%			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7 87.5%	1 12.5%		・各事業所の管理者は他の事業所の社長と研修としてお話しする機会があり、その際に現場の悩み等を相談し、アドバイスをいただくことが出来ている。 ・外部評価に関して知らない職員も多いため管理者を中心に話をおろしていけるよう努める。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8 100%		外部の研修制度を用いて、専門的な研修を受けている。	様々な角度から、よりよい支援に繋がる知識を学び、日々の活動に生かしている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8 100%			
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7 87.5%	1 12.5%		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8 100%			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8 100%			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	8 100%			・職員からの意見を取り入れようと思いつけかけけるが、職員により差がある。その差を埋められるように、また積極的な姿勢で業務にあたるように職員のモチベーションを管理者が管理できるように努める。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8 100%		同じプログラムが続かないように中と外の活動を交互に採り入れるなど工夫し、様々な経験ができるようにしている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8 100%			
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8 100%		一日複数回のミーティングをして正社員もパート勤務も関係なく情報共有をして、より良い支援に繋げている。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8 100%			終業時のミーティングでは、その日の支援の内容等を共有し、記録にも残して、振り返りをできるようにしている。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8 100%		その日の利用時の状況と支援目標の達成具合を記録して残している。	
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8 100%			
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8 100%			
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8 100%			
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				医療的ケアが必要なお子様の受け入れはしていない。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				医療的ケアが必要なお子様の受け入れはしていない。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8 100%			すぐに連絡を取り合えるような体制を作り、相互理解を図っている。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8 100%			すぐに連絡を取り合えるような体制を作り、相互理解を図っている。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8 100%			
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	7 87.5%	1 12.5%		児童館や近所の公園などで地域のお子様と交流する機会もある。今後はより積極的に取り入れていきたいと感じる。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7 87.5%	1 12.5%		外部の部会などの案内があれば情報収集の手段として職員にもアナウンスし積極的に参加を促している。参加した職員だけでなく他の職員にもしっかりフィードバックしていきたいと思う。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8 100%		送迎の際や、連絡ノート等を通して、細やかな共通理解を持てるようにしている。	
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7 87.5%	1 12.5%		利用者の方だけでなく家族支援を目標としているが、まだまだ出来ることは多くあると考える。職員自身が知識や技術を身につけより良い支援に繋がっていききたい。
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8 100%			
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8 100%			
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7 87.5%	1 12.5%		・職員により差があるためプロとしての自覚をより持っていけるようにする。 ・傾聴の姿勢を大切に気持ちに共感し、出来るだけ寄り添えるよう努めている。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6 75%	2 25%		年に1回イベント時に、親子で参加できるプログラムを考え、保護者の方同士での交流を持てるようにしている。回数が少ないので保護者の方のご負担にならないよう検討をしていきたい。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8 100%			
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8 100%			月に一度通信を配布し、週に一度のブログを更新することで、活動の様子をお伝えしている。
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	8 100%			
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8 100%			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6 75%	2 25%		・イベントで近隣の公園や施設などを利用し、地域に溶け込めるよう工夫している。地域に根付いた事業所運営を目指していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7 87.5%	1 12.5%	マニュアルは会社として整備されており、職員にも入社時に研修として話がする体制を整えている。	保護者の方への周知はまだ工夫できると思うので検討していきたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8 100%			緊急時の様々な場面を想定して、必要な訓練を行っている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8 100%			保護者と、しっかりと連絡を取り合い、服薬の確認をしている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7 87.5%	1 12.5%		アレルギー対応一覧をそれぞれの事業所で貼りだし、職員間で共有している。医師の指示書ではなく保護者の方から口頭で聞くことが多いためより具体的な内容を知りたいときは指示書の提出等も検討していきたい。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8 100%			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8 100%		虐待防止委員会を設置し、各事業所の管理職が出席し話し合いを行っている。	虐待防止委員会での話を現場の職員にも話をおろし、虐待について学び職員間で同じ認識をもてるようにしている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8 100%			やむを得ず身体拘束を行う場合について、保護者の方と、細やかに連絡を取り合い、慎重に意見を求めて、十分な説明を行い、必ず保護者の方の了解を得て書面にも残すようにしている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。